

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	重症心身障がい児 福祉ルームみらい野芥		
○保護者評価実施期間	R7年12月1日		～ R8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	R7年12月1日		～ R8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日支援会議を行い、全職員にて支援目標を考える機会を設けている。	・支援目標を考えることで、職員の統一した支援が出来る。 ・終礼の際は支援目標に対して「良かった点」「悪かった点」「次回に活かせる点」など意見を出し合い振り返りを行っている。	・意見を出し合うことで職員の質の向上を図ることやモチベーションアップを行う。 ・会議に参加出来なかった職員に対して情報共有するなどのスキルアップを目指す。
2	医療的ケア児の受け入れが出来ている。	・医療的ケア児受け入れる為の看護師配置をし、多職種による専門的な支援が受けれる。 ・連絡帳などその日の実施した医療ケアなど細かく記載し保護者様との共有を行っている。 ・主治医からの指示書をもとに医療ケアの実施を行っている。	・家族や本人のニーズに合わせ、専門的支援実施計画書などの作成を行い、支援の充実を図っている。 ・福祉サービスについての知識や技術を深め、家族の相談や助言が行えるように努める。
3	職員が内部研修や外部研修を受講する機会が確保されている。	・外部研修を受講する際は、研修制度を設けており受講しやすい環境を作っている。 ・オンラインでの研修参加が行えるように環境を整えている。	・Web研修を導入し、隙間時間で受講することで職員の質の向上に努めている。 ・年間研修計画を立て、職員が参加しやすい環境設定を行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもに対する家族の対応力向上の為の「ペアレントトレーニング」等や家族が参加できる研修の場の提供及び情報提供が弱い。	・保護者様から個別相談に対し寄り添い話をする機会は出来ているが、多くの保護者を対象とした研修や情報提供の取り組みが弱い。	・ご家族様に研修のニーズを確認し、必要であれば検討していく。 ・個別に相談されることは引き続き行い、相談しやすい関係性の構築に今後も力を入れていく。
2	地域との交流や保護者やきょうだいの交流が出来ていない。	・感染対策を強化しているため。 ・福祉サービスや訪問看護等のスケジュールが違う為交流会の日程調整が難しい現状がある。	・感染対策に気をつけながらきょうだい交流や地域交流が行えるように検討する。 ・保護者様に交流会のニーズを確認し、必要であれば検討していく。
3	外出支援があまりできていない。	・感染対策強化の為実施が出来ていなかった。 ・医療ケア児が多数おり、ケアの時間がそれぞれ異なっていたため、外出支援が難しい。 ・休校日のスケジュールなど詰まっていたため外出の機会が持ていなかった。	・外出する際のスケジュールを見直していく。 ・外出する際は医療ケアの内容を事前に保護者様に相談する。 ・近場でなおかつ短時間で外出できる場所がないか調べていく。